

# なかま

青虫の 急行列車 走りけり  
ソユーズの 無事帰還して 花吹雪

## 行事予定表

- 5月18日 Adult Class 春季終了 高等部講演  
小1参観日 (1校時参観 2校時懇談)
- 5月25日 幼稚部親子ピクニック
- 6月1日 運動会係と教員打合せ
- 6月8日 燦々プロジェクト Adult 春季終了
- 6月15日 JASL スピーチコンテスト、卒業式
- 6月22日 漢字検定 夏休み前最終日
- 8月17日 夏休み明け初日

## JASL Students Participate in Princeton University Japanese Speech Contest

Three students from Princeton Community Japanese Language School took part in Princeton University's annual Japanese speech contest on Friday, May 9. Finn Mahon (JASL 3, "Kanji Exam"), Lucas Lopera (JASL 4, "Japanese Apartments"), and Samantha Cuellar (JASL 4, "My Experience Traveling"), participating as guests, made splendid presentations. Finn, who presented his long speech completely from memory, received especially enthusiastic applause. All three students received a special award and prize from Princeton University. Our congratulations to Finn, Lucas, and Samantha!

## プリンストン大学のスピーチコンテストにJASLの生徒が参加しました

5月9日(金)に、プリンストン大学で恒例のスピーチコンテストが開かれ、日本語学校から三人の生徒が参加しました。フィン・マホン君(JASL3)「漢字検定」、ルーカス・ロペラ君(JASL4)「日本のアパート」、サマンサ・クエラーさん「旅行の経験」(JASL4)がゲスト参加し、それぞれ立派なスピーチを披露してくれました。長いスピーチを全部暗記したフィン君には、特に大きな拍手が湧き上がっていました。三人には大学から特別賞の賞状と賞品が授与されました。フィン君、ルーカス君、サマンサさん、おめでとうございます!



## プリンストン日本語学校新聞



平成26年度 No.07号

平成26年 5月18日

文責 長尾重範 nagao@pcjls.org

子育てシリーズ (10) 「悩む力を育てる」

初犯の場合には、つい出来心で悪いことをしてしまったかもしれないので、逮捕されたことをきっかけに自分の行動を悔い改めて、立ち直ってほしいという司法側の期待感が働きます。累犯になると情状酌量の余地は少なくなり刑罰もぐんと重くなります。それでも大多数の犯罪者は累犯(何度も罪を犯す)者です。

戦争のときに多くの敵捕虜を殺害し戦争が終わって戦争犯罪者として捉えられた男を更生させようとした話を読んだことがあります。その男には家族をかわいがる心はあっても、敵の捕虜を殺害することへの罪悪感は乏しく、長く更生することが難しかったと結論付けていました。

上記の二つの例は、人間の思考傾向が成人してからは容易に改まらないことを示しています。また両者に共通するのは、想像力の欠如です。世の中には想像力の欠如があふれています。ストーカー殺人とかも、全く想像力を欠いている行動としか思えません。世界中の紛争やさまざまな争いごととも客観的に見て、同じように想像力を欠いている結果のようにみえます。

私が、教えるという立場で最も困難を感じてきたのも、このことでした。そのように難しい想像する心をどのように育てることができるのでしょうか。人間は人間を通してしか人間らしくなることができまないので、まずは人との交流を常に必要とします。家庭のことはすべて家庭で収束するという事は避けるべきで、他の家庭と交流する、または我が家を開放することは最低限大事だと思います。また自分だけでは成し遂げられない、他の人の協力を必要とする経験も必要でしょう。そうした経験のなかでしっかり悩むことを学ぶ必要があります。想像力は体験的に悩むという過程で健全に育ってくると思っています。

脳の活動に低次と高次の段階があるとすれば、自分だけで収束する活動は低次であり、人と人で作り上げる作業は高次であると言えます。他人を手段にしたり犠牲にしたりする独りよがりの考えや行動は決して賞賛されません。逆に、さまざまな問題や困難を克服してみんなのために働くことは多くの人から賞賛されるでしょう。人間には「いなくて困る人」と「いてもいなくてもよい人」と「いない方がよい人」がいると言われたりしますが、わが子には「いなくて困る人」になってもらいたいですね。